

連載：原点

「道のり」

幕張総合高等学校 南雲 智

-きっかけ-

私が高校の教員になりたいと感じたのは、高校時代の頃でした。

「青春と呼べる一番の時期は高校生のときである。ならば一番充実していた場所で働きたい」というのが本音です。また、小学1年生の時、校長が私の父であり、父の職業にあこがれましたが、そこに辿り着くまでに様々な出来事がありました。

-教員になるまでの道のり-

「教員になってやる。」と意気込みましたが、現実には甘くはありませんでした。大学を卒業した平成10年には、就職難で教採の採用人数も減少、実家の長野県で受け、結果は不合格。教員の道しか考えていなかった私は長野に帰り、ある県立高校の非常勤講師をすることになりました。(後2年間)この2年間を含め、長野で3回受けたのですが、1次試験がパス出来ず、失敗。さらに、3回目の教採に失敗した年の9月、勤務校の校長に呼ばれ、こう言われました。「君はあと何年かけても教員になれない。悪いことは言わないから、今から一般企業に就職する道を考えなさい。」この言葉は一生忘れません。悔しくて、悲しくて、今なら問題発言で裁かれていたでしょう。これが原因で、長野県を出ようと決意しました。

千葉県は私が大学時代住んでいたことから、塾で働こうと決めました。専任講師で働き始めたその年、これまた不幸は続く？もので、その塾の社長が、給料を払わない(計3ヶ月)、2月に塾の借金で倒産…。私は塾を去りました。ここで、人の見極め方

や、社会の厳しさを学びました。

それでもくじけない私、塾を去った後、松尾町立松尾中学校で1年間、数学の非常勤講師をすると共に、平成15年度から新たな教科「情報」の免許を通信で取得しました。しかし、千葉県で受けても相変わらず教採の1次をパスできません。

それから、千葉東の通信、佐倉、湖北と毎年、様々な特色のある高校で、講師として修行の日々を送りつつ、教採も受けました。そして5回目(計8回目)の採用試験で、見事1次合格、2次も合格することができました。

ただ、残念なのは2次合格の日に、父が癌で亡くなってしまったため、素直に喜べませんでした。

-これから-

今年度から、幕張総合高校で「情報・数学」の教員となった私のすべきことは、前向きに生きることを生徒に伝えることだと思います。他人を思いやる心を学び、自分をみつける場所である学校で、自分を磨き、生徒と共に、教員として成長していきます。

